



「子どもたちが主体的に創りあげる あそびからの学び～自然・人間関係～」 めぐみの子幼稚園の実践から学ぶ

2024年度神奈川県私立幼稚園協会教育研修大会 湘南地区大会

令和6年11月16日

東京家政大学

佐藤康富



1. 今の子どもがおかれている状況

ールポ「誰が国語力を殺すのか」石井光太からー



不登校



子どもは自分の言葉
を失っている



非行



ゲーム依存



子どもは学ぶ力を発揮できない —「学力喪失」 今井むつみ—

- 乳幼児期の子ども、また、学齢期の子どもも、本来、「学ぶ力」をもっている。しかし、大人が抱いている「学び」や「知識」へのご認識が、子どもの「学ぶ力」奪い、喪失させている。



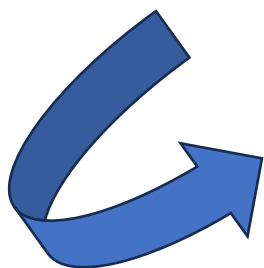
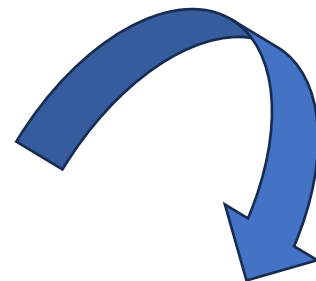
2. めぐみの子幼稚園秋山宏美先生の 実践から学ぶ

- **子どもの興味関心を活かす、子どもが好きなこと、自分の思いを発揮することができる。**

⇒子どもの主体性、子どもが自分の人生を生きる権利



子どもの経験を広げる





仲間と考え、仲間を思う生活

・体験の多様性とともに





運動会で活かす



1人の子どもの意見を
生かす

たまごのきりぎりす
（たんす）
（9）
初めてあまのりでダンスの曲を踊った日。多岐もたちは
「わーわー」「わーわー」という声で踊った。その日からあまのりには
合奏でダンスがはじまりました。その時は、曲を踊るアスファルトで
「こんなんはどう？」と表現をきき多岐もたちがたりある時は、アスファルト
「これをいれたい」という思いを伝えたり、「このうごきば、あまのりかな？」と
反たちと意見をきき多岐もたちは、これこそがあまのりの合奏
あまのり天事な曲を踊るんだなと思いました。曲の中に、イロカどうでも
いれた。ダンスの表現がありました。8月みんなが歌を「こんなんいれたい
といふた。それは、Aくんが踊るように皆の前で表現したことでした。
この動きをどうするかを話し合いました。1人の意見は皆によて大事にされる時
あれば、無かったことにされることにもなりました。ここは大事にしたがった
ので、多岐もたちは1人の意見も大事である、どうするかを伝えました。
すると、否定していた多岐もたちは「それならいいよ」と考えを変えて今では
一緒に踊っています。こうして結果なこと、時間をかけて合奏ができたダンスが
あまのりのダンスが、みんなの心を動かす、いざいざとな、て盛りまわされて
いきますように。

3. 「科学遊びを楽しもう みんなで創る 北極の世界」 横浜市立鶴見保育園の実践から

- ・子どもたちの探究の広がりや深まり
- ・その出発点は子どもの小さな気づきから



主体的に学ぶ子ども＝自分の考えに基づき、 探究し、判断し、世界を新たな世界を創り出す

主体的に思考する子ども

自然、社会生活、物理的世界に関する**自己の作業仮説**を立て、疑問を持ったり、調べたり、探究したり、一般化したり、変更していく能力を発達させる。
(ニュージーランド「テ・ファリキ」)

アブダクション
(仮説的推論)

アブダクション推論とは、様々な事象・知識を組み合わせ、比喩や類推を使って新たな考え、知識を創り出す推論・思考のこと。

大事なことは



- 子どもの**声を聴く**保育
- 子どもと**共に創る**保育
- 子どもが**人生を自分らしく生きる**

